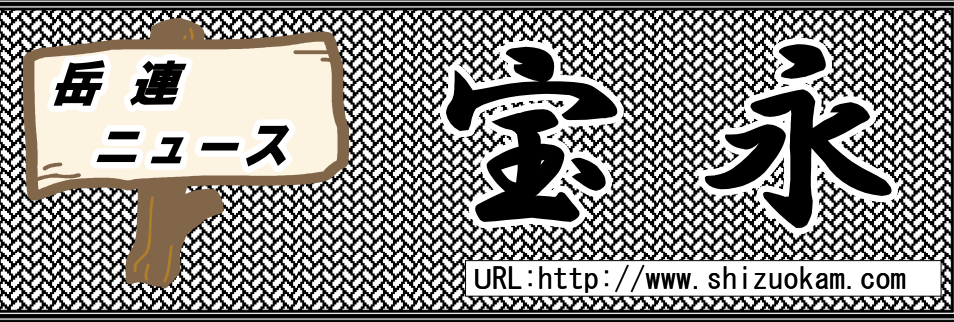




静岡県山岳連盟

〒420-8076
静岡市駿河区八幡3-1-17
TEL (FAX) 054-288-7512
編集発行/総務委員会
平成29年3月13日発行
第20号



平成28年度の第56回冬山登山講習会・第54回冬山登山指導者講習会が2月4日(土)～5日(日)に亘り富士山御殿場口双子山周辺に於いて開催された。

参加者は高校生62名、一般初級5名、中級4名、顧問・指導者10名、講師・本部員を合わせて97名の参加であった。

開講式では滝田会長、県教育委員会健康体育課長の挨拶があり、その後指導委員長よりの諸注意、講師紹介をした後、講習を開始した。

高校生はテント設営の

手本に、各班毎にテントを設営した。その後服装、装備品の点検・確認を行い、双子山方面に訓練場を求めて行動を開始した。

今年の双子山周辺は雪が少なく、沢筋に雪を求めている講習と成った。内容は事前の講師打合せに基づき、雪面歩行(ツボ足・キックステップ)による直登高、直下降、斜登高、斜下降)、ピッケル技術(名称・携帯法・使用方法)、耐風姿勢等の訓練を実施して一日目の講習を終了した。



デモンストレーションを

冬山の基礎技術を習得 第56回冬山講習会 御殿場口双子山周辺で実施

2日目は早朝6時より行動を開始し、箱根連山に昇る朝日を見ながら双子山の斜面まで登る。そこで、アイゼンを着けての雪面歩行(直登高、直下降、斜登高、斜下降)、滑落停止などの訓練を講師が見本を示しながら繰り返し実施した。中級と高校顧問はロープを使い確保技術の習得が行われ



た。途中から雪の舞う天候と成ったが、予定時間までに計画された講習の全てを修了した。

閉講式の講評では冬山

中級セルフレスキュー研修会開催される

平成28年度中級山岳セルフレスキュー研修会が興津生涯学習交流館と西湖キャンプ場近くの岩場にて、28年11月19、20日と二日間行ないました。

今回、日本ロープレスキュー協会の堤伸夫氏を講師にお願いし21名の参加者で開催いたしました。

午前中は室内で行ない、カラビナの形にはそれぞれ意味があり用途において使い方を間違えない、スリングも目的や用途で使い分ける、ブルージッ



クの使用等を行いました。午後は屋外にて確保訓練をペアを組みトップビレイとセカンドビレイを意識して交互に繰り返して練習をし、又ブルージックによる登高等練習を一日目の講習を終了した。

二日目は西湖キャンプ場に移動し自己脱出から探索を何回か行い又、確保器の固定再確認、吊り上げ実習等行い講習修了となる。二日目の参加者21名でした。

(堀内 修)



岳連ホームページ

11月常任理事会

日時 11月21日(月) 18時30～20時30
場所 静岡労政会館 5F会議室
出席者 滝田博之、木ノ内高嘉、堀内修、坂田昇、鈴木修、清水雄三、諸戸明、工藤誠志、出利葉義次、松永義夫、豊田稔、田中保広、内海廣治、浅井徹
会長挨拶
①日山協臨時総会11月13日開催し、名称を日本山岳・スポーツクライミング協会に変更
②山の日の事業
講演会、写真展開催
来年度の山の日記念事業は1月中旬ごろから詰めていきたい。
③岳連カレンダー まだ残っています。
(1) 報告
①指導委員会(工藤)
・紅葉の赤岳に登ろう参加者12名全員無事終了、コップェルなど持参
・中級山岳レスキュー講習会(堀内)
ロープを使いながらレスキューをやった
②いわて国体(諸戸)

10月5日～7日オリンピック種目になったので厳しい大会となった、課題が残った。
・山の日記念行事ハイキング(10月16日)
東部参加者10名スタッフ3名。和気あいあいに宝永山頂を目指し登ったが少し遅れた人がいた。宝永第1火口で落石があり大きい音がした。中学生の申込み者がいた。
(2) 事業計画
①海外登山研修会(出利葉)
17年2月7日(火)
②指導委員会(工藤)
・指導員研修会1月29日(日)
・冬山講習会(滝田)
2月4日～5日
・入笠山で雪山を楽しむ(内海)
定員25名。2月15日座学。3月5日(日)入笠山実技。多くの方参加願います。
③高校ボルダリング競技大会(諸戸)
2月11日プラネットクライミングジム静岡店
④初級山岳レスキュー研修会(堀内)
1月21日(土)
⑤指導員研修会(工藤)

・団体呼びかけの講習会や市民バスハイクと旅行業法の課題
講習とバスを別手配とすれば旅行ではない、現地参加とする。
⑥竜爪山岳競技会について(清水)
12月11日(日)お手伝いをお願いしたい。役員8時30分打合せしたい
前川、工藤、豊田、滝田、木ノ内参加予定
(3) その他
・岳連カレンダー 申込み願います
・山の日記念 来年話をしたい
・日山協東海ブロック別研修会(滝田)
2月16日 運営研修(審判員養成研修)会場あざれあ 参加費2000円 申込み1月31日まで
C級審判員認定研修に参加願います。
・中高年登山安全講習会(木ノ内)
9月23日～25日実施。
来年度は静岡が実施会場となる
地図読みの講義 公認指導員に講師サブをお願いします。
道迷いを防ぐには現在

地が分かっていない。指導者もレクチャーを受ける必要がある。
・宝永19号 原稿ありがとうございました。次回20号から紹介コラムを設けます。
・スポーツフェスティバル(堀内)
9月24日～25日 今後参加者をどう増やしていくか。山の日の行事との兼ね合い、中身の充実、参加すると意義がある、もう少し内容を詰めたかどうか講習など
広報のやり方、一般登山者の取り込みなど(出利葉)
・富士山ビュースポット50選募集(滝田)
(浅井 徹)

1月常任理事会

1月23日、静岡労政会館で常任理事会が開催された。
会長から白樺荘近くで道路が通行止めとなり今年の冬山登山相談所は中止。年度末に向けて、残りの事業の進行に協力して欲しいと挨拶があった。
出席者 滝田博之、清水雄三、木ノ内高嘉、前川朝夫、出利葉義次、豊田稔、工藤誠志、小田直美、鈴木修、田中保広、内山一彦、市川隆夫 浅井徹
(1) 報告事項
①竜爪山岳競技会報告(清水副会長)
12月11日(日)竜爪山岳競技会開催、3年ぶりに正規コースで開催。参加者は成年2名、高校生69名、参加校は7校。
②全国選抜高校クライミング大会が埼玉県の加須市民体育館で開催され、富士宮西高・浜松日体高・浜松学芸大高が出場。団体系女子で浜松日体が4位、同男子で富士宮西が6位と健闘した。
③1月15日中高年安全登山講習会の連絡会が東京で開催され、滝田会長、木ノ内理事長が参加した。
29年度は静岡が担当で9月22日(金)～24日(日)で実施の予定。
(2) 計画
①指導員研修会
1月29日(日)9時静岡市体育館で開催。その後冬山登山講習会の講師打合せを行う。
②冬山登山講習会
2月4日～5日、御殿

場口双子山付近で実施、登山指導者講習会も併せて開催。
③国体予選会 第72回国体県予選会要項の確認。5月3日、リード競技を浜松スクエア、ボルトリッング競技をB・S・P・O・Tで開催する。
④海外登山研究会
2月7日、静岡市の来てこでカーリー・タウ峰登山報告と座談会を開催。
(3) その他
①岳連カレンダー 3部作作成し2部残し完売。収入は10万7千4百円。印刷代が若干値上がりし、収益が減る。次年度以降の作成の可否は検討したい。
②山の日とスポーツフェスの日行事とスポーツフェスは近い時期にあるので、検討する。
(4) 今後の予定
常任理事会 3月13日
29年度総会 4月22日
各委員長は3月8日まで報告と計画を事務局へ。
29年度はブロック大会、中高年安全登山講習会、創立70周年記念事業と大きな事業が目白押しです。皆様の協力をお願いいたします。
(前川朝夫)



この大会は元々は国体山岳競技の縦走の練習会として始められた。08年の大分国体より山岳競技から縦走が廃止となったが、その後も高校総体の

3年ぶりに正規コースで開催

が12月11日(日)に静岡市の竜爪山を会場に実施された。一昨年は大雨による登山道の崩壊で開催以来初めて中止となった。昨年は大雨で、スタートを平山公園、ゴールを穂積神社とするコースの変更があった。今回は3年ぶりに好天のもと、本来の形で実施することができた。

竜爪山岳競技会

県大会に規定重量(男子21kg、女子17kg)を合わせ、主に県内高校登山部員の体力を競う大会として継続されている。参加選手は持てる力を振り絞りゴールの山頂を目指した。上位の結果は以下の通りである。

個人男子	1位 鈴木光 浜松日体高校 62分17秒
	2位 市川健太 富士宮西高校 63分26秒
	3位 大山諒人 浜松日体高校 63分48秒
個人女子	1位 石川陽菜 浜松日体高校 72分38秒
	2位 久保田百音 富士宮西高校 75分00秒
	3位 東内原沙良 富士宮西高校 78分30秒



成年男子個人	1位 森下峻也 富士宮西高校教諭 66分00秒
	2位 鈴木和也 浜松日体高校教諭 87分49秒
	3位 学校対抗(上位3人のタイム合計)
男子	1位 富士宮西高校
	2位 浜松日体高校
	3位 富士東高校
女子	1位 富士高校



2位 富士宮西高校
3位 浜松日体高校
(清水雄三)

山岳会紹介

藤枝市に本拠を置きながら、牧之原市、島田市、焼津市など市外からも多くの会員を迎え三十代から七十歳代まで幅広い層の会員二十一名で構成しています。今年五月には創立七十周年を迎え記念講演会・祝賀会の開催を計画しています。発足当時は戦後で物資が乏しく、現在の様に登山愛好家も少ない中で、いろんな知恵を出したと聞いております。例えば冬山では、テントマットの代わりに燃料用の炭が詰められていた炭俵を解体し、マット状にして愛用していたなど、今も現役で活躍している塩澤寿雄さんから苦労話として聞いております。

藤枝山岳会

会長 浅井 徹

昭和四十年代には、全国の山岳団体の間で、地域研究と言うことが盛んになり、当会でも、当時の本川根町の寸又川流域をその対象地域に選定し、三か年掛けて全ての沢の完全遡行を行い記録に残したと聞いております。会の活動として毎月一回開催する例会で月例山行の計画を立て、地図読みなどテーマを決めた月例山行を行っております。夏山合宿も数回の準備打合せを行い南アや白山に行っています。県山岳連盟加盟の島田ハイキングクラブや島田しらびそ山の会また特殊東海製紙山岳

部の皆さんと大井川ブロックとして協力し合い、スポーツフェスティバルの開催協力や年1回の合同山行を実施し山岳会同志の親睦を図っております。また二十年ほど前から藤枝市商業観光課より委託を受け、藤枝市内の八本のハイキングコースの整備を行っています。作業は草刈りや標識の確認、ゴミ拾い、昨年は山頂付近の展望を良くする為、木の伐採も行いました。市内の山歩きの楽しさも兼ねて会員数名で定期的に行っています。昨年十一月には藤枝市商業観光課との連携で市民ハイキング講座を開催しました。広

報「ふじえだ」に掲載し募集した結果、定員二十七名に対して七十名ほどの応募があり反響の大きさに驚きました。ハイキング講座参加者を案内して、市内北部の高尾山・笠張山にハイキングに行き紅葉を楽しみました。この様なイベント開催で広く市民へのハイキングコースの紹介や自然への親しみ、健康づくりに協力でき、また参加者の中から新規会員が入会するなど嬉しい効果が表れています。これからは幅広い年代の会員を増やし技術レベルを上げていくと共に、楽しみながら安全な登山を続けていく為の企画・活動を進めていきたいと思ひます。

全国高校クライミング大会

全国4位 浜松日体女子団体

第七回となる全国高校選抜クライミング選手権大会が12月24日、25日の二日間、例年通り埼玉県の加須市民体育館で行われた。

静岡県からは、男子は望月衛(富士宮西三年)、大橋歩(浜松学芸一年)、古郡雷漸(富士宮西二年)の三名が、女子は中村祐香梨(浜松日体三年)、鈴木彩有希(浜松日体二年)、勝本真衣(富士宮西三年)の三名が出場した。

予選はフラッシング二本の合計で順位が決まる。男子Cルートは最近のルートらしく、スローパー主体でありながら随所に思い切ったムーブが必要とされるもの。一方Dルートは、同じくスローパー主体であるが、バランス的な動きが要求されるルートであった。いずれもグレードは13Aであろうか。三人とも健闘したが全員惜しくも予選落ちとなった。特に望月は28位(予選通過は27人)で、どちら



予選落ちとなった。この結果、県勢で翌日の準決勝に進出できたのは中村一人になった。予選を通過するためには、男子は13Aを、女子は12Cを複数のジムでレッドポイントしていることが最低条件であろう。



登山指導者スキルアップへ

平成28年度指導員研修会

1月29日、静岡市中央体育館において、h28年度の指導員研修会が行われた。今年度は公認指導員のほか一般の指導者にも参加を広げたため、35名の参加者があった。今回は「登山リーダーの法的責任」「山での病

と旅行業法」「滑落停止と耐風姿勢の課題」の4つのテーマで研修会が行われ、参加者は真剣な表情で、メモをとったりカメラに収めるなどしてリーダーとしてのスキルアップを図っていた。「法的責任」では滝田会長が担当し、山でのリーダーは常に危険が伴って

いることを自覚し、危険予知の能力が求められている。そのため登山の全において安全配慮義務があるという。これに反して事故を起こすと、不法行為となり、刑事、民事の責任を負うことになる。登山の計画から実施まで、安全に十分な配慮がなされている、又、事故時の対応、判断にミスのないことが求められる。「熱中症への対応」では小田常任理事から民事賠償責任を負った高校山岳部の熱中症死亡事例より、裁判では顧問教師は熱中症の重篤性についての判断基準は周知のはずであるとの判断が示された。リーダーは熱中症で意識障害がある場合は直ちに医療機関に搬送する必要がある、命にかかわる段階であるとの認識が重要であると話した。工藤委員長からは登山講習会などで費用を集めて宿泊施設の取次ぎを行うと旅行業法違反となる。これを回避するために参加費を受講料と宿泊、交通費に分けて表現すればよいと説明があった。(木ノ内高嘉)

結果 男子 望月(28位)、大橋(49位)、古郡(67位) 女子 中村(12位)、勝本(33位)、鈴木(41位) 男子団体 富士宮西(6位)、女子団体 浜松日体(4位) (難波利行)

富士宮西が六位と入賞することはできたが、他県(特に関東)では小学生・中学生の強化が進んでおり、このままいけば来年度以降は苦戦が予想される。静岡県も小学生・中学生の強化に取り組み、彼らを岳連・高体連で連携して支援していくことが必要になってくると思う。

中里

小学6年
女子

優勝

小中学生大健闘のボルダリング大会

第10回静岡県高校ボルダリング競技大会が、2月11日(土)に静岡市のプラネットクライミングジムで15校選手61名(男子45名、女子16名)の参加を得て行われた。

県の強化事業の一環の本大会は、最年少で小学生6年からの幅広い参加を得て競技が行われた。

予選は1時間30分で男女共通の12課題のセッション形式で行われ、上位の男子6名、女子5名選手が決勝に進んだ(予選全完登は男子片桐1名、女子トップは中里の10完登)。

ルートセット後、決勝が男女別ルートで4課題4分間隔のベルトコンベア方式で行われた。まず女子は、中里(裾野南小)が強い保持力と的確なムーブで全課題一撃で、3完登の広井(沼津中)を抑えて優勝。昨年の片木に続き小学生の優勝となった。男子は最後に登場した片桐(豊田中)が、第

一課題の緩傾斜の距離のあるホールドに3トライを有したが、ムーブの流れの中で解決。残りの3課題は的確な登りで一撃し、同じく4課題完登の原(浜松日体高)をトライ数で抑えて優勝。2連覇を達成した。

スポーツクライミングが東京オリンピックの正式種目となり、若年層において熱心に取り組む少年・少女が増加しているが多くの場合組織には属していない。そのような

スポーツクライミングが東京オリンピックの正式種目となり、若年層において熱心に取り組む少年・少女が増加しているが多くの場合組織には属していない。そのような

日山協全国理事長会議

山の日事業の充実 2020五輪でメダル獲得へ

2月12日、日山協全国理事長会議が東京のフォーラムエイトで開催された。公益法人の移行で評議員制がなくなり、地方の意見を聞く場として、代表者会議を開催してきたが今年から名称を変えて、理事長の出席を求めるようになった。

な層を取り込みながら、オープンな大会にし強化を図っていく必要性を感じている。ただ、大会の運営は、ぎりぎりの人数であり、今後の課題である。

【男子の部】

1位 片桐綾真(磐田豊田中)

2位 原 賢伸(浜松日体高)

3位 河合康太(浜松日体高)

【女子の部】

1位 中里 溪夏(裾野市立南小)

2位 広井真菜(沼津中)

3位 横田はるな(浜松日体中)

(諸戸明)

八木原会長は4月から

の名称変更やジュニア事業の実施が半分しかない。若者を取り込む機会と捉えて実施をしてほしい。又、皆さんは日山協の人です。その立場で考えてほしいと話した。会議は午前中、12月未までの事業報告、会計中

間報告、共済会事業などの報告と次年度事業方針、予算方針、午後は共済会事業と意見交換会があった。

スポーツクライミングが東京2020オリンピック大会の正式種目となったこと、山の日が国民の祝日として施行されたことが上期の特筆すべきことであると報告があった。

11月の臨時総会で法人名称を(公社)日本山岳・スポーツクライミング協会(JMSCA)に決定し、ロゴマーク、旗などを手配している。「山の日」記念事業として「ふるさとの山を登ろう」キャンペーンでは40都道府県が実施した。12月にホームページをリニューアル

間報告、共済会事業などの報告と次年度事業方針、予算方針、午後は共済会事業と意見交換会があった。



八木原会長の挨拶

し、国体やクライミングの結果がアップされている。ジュニア登山教室の参加者があまりにも少なく、費用対効果はどうか、今後も継続するのかの質問には、今後は各ブロックに移行して実施していきたいとした。

29年度事業方針では、登山界の統一団体として安全を第一に普及・振興を図るとする従来に加え、「山の日」の各種事業を全国的な視野に立って進め、東京オリンピック大会に向けて組織体制を強化しメダル獲得に向け努力すると記した。

協会の名称の変更を機に山岳とスポーツクライミングのバランスをとるなかで、各事業を推進する充実が望まれるとした。競技事業は従前の競技部をスポーツクライミング部とする組織体制でスポーツクライミングの普及振興、選手の強化育成、競技大会の充実、広報等の強化を図る方針だ。

財政では事業実施のためには、安定した財政基盤の確立が重要で、クラ

イミングの五輪種目に伴う知名度アップを活用してスポンサー獲得に務め、事業の見直しや経費の節約など適切に事業を執行し、加盟団体の理解と協力を得て、募金活動等自主財源の確保に努めるとした。

山岳共済事業報告では、今年度目標の6万人突破が難しくなった。新規加入者が前年より減り、外向けの広報に工夫する必要がある。独自事業の位置探查機「ヒトココ」のレンタルサービスは8件あり、少し認知されてきたという。

今回、次年度計画案の提案がなく、参加者からは岳連の計画が立てられないので早急に提示してほしいと要望があった。

質問では、オリンピックへの取り組み、指導員制度の諸問題、短期共済の創設など多くの項目が出て意見交換した。理事長会議について、各県は

地方の課題や問題を話し合い、意見や要望を言える機会として今後も開催するよう要請した。

(木ノ内高嘉)

ブロック研修会

平成28年度の日山協競技部ブロック別研修会(東海ブロック)が2月25日、静岡市の「中央体育館」、26日、「あざれあ」で開催された。

研修はクライミングC級審判員養成講習(6名)、競技運営研修(8名)、競技運営員認定研修(3名)の3種別が実施され、東海各県の17名が参加した。日山協からは目次氏、滝内氏、有枝氏の3氏が講師で来静した。



審判員講習会

審判員養成の前半の講義が行われた。クライミング競技のルールはIFSCルールが国際ルールであり、小さな大会であっても根

幹部分は準拠しなければならぬという。そのため基本となる、16年版「C」のルールの解説をもとに講習を受けた。26日も続けて同様講義を受け、最後に認定試験を実施した。

26日午前は滝内講師による運営員認定研修を実施。日山協の概要の説明から昨年のいって国体の開催状況の動画を視聴し、山岳競技の予備知識を得た後、大会の運営について説明を受けた。特にリー

初級レスキュー講習会

平成28年度初級山岳レスキュー研修会が興津生涯学習交流館にて、29年



1月21日に開催された。受講者は所属団体会員、個人会員、一般の方など32名で、講師3名、岳連スタッフ4名の39名の参加者があった。

午前中はハイキングレスキュー(山で役立つ装備と使い方・搬送法・悪場の通過等)3班にわかれて、それぞれソウンスリング、ザック、ストック等使い、又、屋外にて悪場の通過及びスリング



目次講師

ド競技は屋外常設競技場で、1日中雨の中を実施し、屋外競技場の運営の難しさが浮き彫りになった。その後規則集に基づきボルダ、リード競技のルールと11月の改正点、

総合成績の決定などを学び、終了証を受けた。

午後の有枝講師による競技運営研修では東京5輪の取り組み、選手強化や育成についての解説を受け、ワールドカップの動画を視聴し、国際大会の雰囲気を感じることができた。スポーツクライミングの人気の世界で高いことが正式種目に採用されたことと説明を受けた。

平成30年に日体協の指導者制度が改正され、世界基準を念頭に現指導員は全てコーチになるという。(木ノ内高嘉)



を使いブルージックでの登り下りを講師の指導で行った。

午後は、弘明堂治療院

北限の富士山遠望に成功

1月17日、福島県花塚山(919m)から308km先の富士山の写真撮影に成功したと各誌が一斉に報道した。

以前から富士山が見える北限は、緯度・経度、障害物などに加え、地球の丸み、光の屈折率を考慮したカシミール3Dでのシュミレーションでは、花塚山が北限の可視ポイントとして指摘されていた。

これを知った地元のグ

の佐藤弘明先生にテーピングテープの使用方法を学び腰・膝・足首等実際に張って試してみた。

最後に前県警山岳救助隊長眞田氏より、富士山の遭難事故等の話があり出来る限り単独行で山に行かない、計画書を早めに出すことなどを話されました。

(堀内 修)



ループが7年前から撮影のため花塚山登山を繰り返し、昨年11月26日、午前7時ごろ、山並みからわずかに頭を出した富士山を撮影。撮影者の一人菅野さんは55回目の登頂で成功したという。

花塚山からの富士山遠望の可能性を指摘した、日本地図センター常務理事の田代博さんに写真とデータを送り確認したところ、カシミール3Dで作成したCGと写真が一致したことで確認ができ、今回の発表に至った。

光は大気の密度差による屈折率の違いにより直進せずに曲がってしまう。このため直進した場合には、見えない所まで見えてくる。冬場は気温が低く屈折率が大きくなり遠くまで見える。

空気の澄んだ冬の季節、しかも放射冷却のもつとも厳しい早朝が一番確認しやすいとのこと。

たいへんな苦勞が実った快挙に、拍手を送りたい。(木ノ内高嘉)